

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	敬老事業					事務事業コード	01811
部 名	健康づくり部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係	部課コード	040200

1. 事業概要

総合計画コード	2212				
事業年度	年度 ～ H 年度		事業類型	●ソフト事業 ○ハード事業	
法令等の義務付け	○法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ●任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務			<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 朝霞市敬老祝金条例	
めざす 目的成果	敬老の意を表するとともに、長寿を祝福することができている。				
事業内容	敬老祝金給付事業 長寿を祝う会の実施				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付				
	対象者に通知をおこない、申請に基づき敬老祝金を支給する。長寿を祝う会を実施。				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			長寿を祝う会:対象者 77歳、88歳、99歳、100歳の者 参加者:314人 敬老祝金:市内に1年以上在住する者で 77歳、88歳、99歳、100歳の者 支給者数 1,400人(H29.3.1現在)								
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]				21,328		13,124		17,395		
	財源内訳	[イ]国庫支出金									
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他									
		[ホ]一般財源			21,328		13,124		17,395		
	b 人件費				2,198		2,198		4,030		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)					23,526		15,322		21,425		
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.30 人		0.30 人		0.55 人			
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間			
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳			賃金 17千円 需用費 174千円 役務費 551千円 委託料1,353千円(演芸委託等) 負担金、補助金及び交付金15,300千円(敬老祝金交付金)								
指標名			単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画	
				(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度	
活動	①	敬老祝金支給総額	千円	15,540 (14,350)		15,540 (—)		15,540 (—)		H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	
成果	①	敬老祝金交付率	%	100 (98)		100 (—)		100 (—)		H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 多年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う事業の一環として行われていた事業である。国や県でも対象者に祝品を贈呈しており、行政が積極的に関与をする必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☐ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☒ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> ほぼ全員の方に敬老祝金を支給することができた。敬老会を式典を中心とした「長寿を祝う会」として再開ができた。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 敬老の意を表するとともに、祝福した。 参加と協働: 敬老の意を表し、市民全体で尊敬し祝福した。 経営的な視点: 情勢に留意しつつ、福祉の向上に努め実施した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☒ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 長寿を祝う会について、参加対象者の年齢要件について見直し検討を要する。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☒ A 見直して継続 ☐ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☒ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☒ その他 (実施時期: H 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		敬老会については、市民とともに長寿を祝う式典と余興の2部構成で実施した。対象者については、節目の年齢である77歳・88歳・99歳・100歳とあわせ80歳・90歳を新たな対象者に加え拡充を図る。		